

に右手の親指をさし入れた状態）時計のネジ



を巻くように握られた親指を軸にして、人差指を廻転させる。右手人差指を時計の針としたものか、或はまた

時計のぜんまいを巻くことか。

何処 右手の指頭を上にした人差指を左右に振りながら、その手を右へ移行させる。

所 五指を彎曲させた手の掌を下向けてぐらりと小さい輪を描いて、その輪の中心と思われる位置に手を止め僅かに下へ押し降す。

登山 掌を下向けて五指の指頭を右にさした左手で右から左へ「山」の形を描いて、その腕を立てたままにとどめ、その腕から手の上へ、右手人差指と中指で歩いて登って行く

年 年を表わすには、左手の親指と人差指で輪をつくり（他の三指は伸ばしたまま指頭は前方直角）右の人差指でその輪を一つぼんとたたいて、輪の上をぐるりと一周させてそれに数の一を出すと一年となる。

この年の手まねのなりたち（語源）はつまりらかでないが、樹木の年輪を表現したものと見えよ。

三年ならば、年一三。

平号で年を表わすには、明治十年ならば「明」の文字を人差指で空間に書き、「十」の数を表わす。

大正ならば「大」。昭和なら「昭」と。（もし、明治の場合、明治天皇の特長のある鬚鬚を模写手まねして、年の数を表わしたものであるが）「大正」「昭和」も地方によって約束された記号手まねがある。

今は主として、西暦で年を表わしている

が、これは、右の人差指と左の人差指を十字に交叉して、キリストを表わし、一九六〇と上から下へ順に数を表わして行けばよい。キリストの手まねは省いてよし。

**齡** 五指の指頭を前方にさし掌を左側にした右手を顎の下につけ、「いくつ」(數)の手まね。即ち親指から順次に折り曲げて行く。美味しい(顎)雑煮を食べた數。「十五歳」と表わす場合。齡——十五とする。

**齡寄り** 「齡」を表わしてから、その顎の下で掌を下に向け五指彎曲した右手、その下に掌を上に向け五指彎曲した左手を相向わせて、右手を上へ左手を下へ離して行く。數鼠(齡)のポリュームを表わしたこと。

どちら 「較らべる」と同じ手まね。

土地 土——所。

突然 「急に」と同じ手まね。

とても 「むづかしい」と同じ手まね。そ

れに小首を振るがよい。

**整ろ** 「整理」と同じ手まね。

**とに角** 「それはそれとして」と一般に誰れもする身振り。即ち五指の指頭を上さし掌を前に向けた両手を前右寄り斜めに下へ押しつけるように出す。

**賭博** (イ) 両手でカルタを繰る身振。(ロ)

両手を上下に合せてまるくふくらませて手の中にある賽ころを振る身振。

**薦 茶—鳥** (この場合両手で羽ばたきせず)に静止して身体を左右に向ける、薦の空中滑走。

**止まる** 指頭を下にさした人差指と中指で「歩く」の手まねをして、二指を揃えて停止させる。

**止める** (イ) 五指の指頭を左にさし掌を内側にした右手を右から左へ移行させて行くのを、五指の指頭を前方にさし掌を右側にした